

健康診断及び人間ドックの結果成績表に 「精密検査・経過観察依頼書(白の封筒)」が入っていた方へ

※ 重要なご案内です ※

当クリニックにて以下のがん検診を受診された方で、再検査・精密検査が必要と判断された場合は、「精密検査・経過観察依頼書」を結果成績表に同封しております。

1. 対象となる検診(主な検査)

- ・肺がん検診(胸部レントゲン検査)
- ・胃がん検診(胃部レントゲン検査)
- ・大腸がん検診(便潜血反応検査)
- ・子宮頸がん検診(子宮細胞診検査)
- ・乳がん検診(マンモグラフィー・乳腺超音波検査)

2. 封筒は開封せず、人間ドック結果、または健康診断結果と一緒に検査を受ける医療機関へお持ちください。

- ・紹介状として使用できるかどうかは、事前に受診予定の医療機関へご確認ください。
※200床以上の医療機関を受診される場合、選定療養費がかかることがあります。
- ・検査後、受診医療機関の医師より当クリニックへ検査結果が返信されます。健診の精度管理と地域の公衆衛生向上に役立てております。

3. 当クリニックにて対応可能な方

- ・肺がん検診を受け、精密検査・経過観察検査が必要な方
- ・胃がん検診を受け、精密検査・経過観察検査が必要な方
※検診結果や所見によっては、他の専門医療機関をご紹介させていただく場合があります。
- ・『外来受診のご案内』または『再・精密検査のご案内』が同封されている方は、そちらも合わせてご確認ください。
ご不明な点がございましたら、当クリニックまたはかかりつけの医師にご相談ください。

一般財団法人日本がん知識普及協会
附属 有楽町電気ビルクリニック
TEL: 03-3213-0099(9:00~17:00)

【肺がん検診に関するご案内】

受診者の皆さまへ

この度の検診結果に基づき、精密検査が必要と判断された方は、必ず精密検査を受けていただく必要があります。精密検査の重要性と方法について、以下の通りご案内いたします。

1) 精密検査の必要性について

- ① 肺がんの早期発見のために、「要精密検査」と判定された方は、必ず精密検査を受けてください。
- ② 喀痰細胞診で「要精密検査」となった場合、喀痰細胞診を再度行うことは適切ではありません。必ず CT 検査や気管支鏡検査などの精密検査を受ける必要があります。
- ③ 精密検査を受けることで、肺がんの有無をより詳しく調べることができます。

2) 精密検査の方法について検診結果に基づき、以下の精密検査を行います。

- ① CT 検査(コンピューター断層撮影)
 - ・ 胸部を詳細に撮影し、小さな病変の有無を調べます。
 - ・ X 線検査よりも高精度な画像診断が可能です。
- ② 気管支鏡検査
 - ・ 細いカメラ(内視鏡)を気管支内に挿入し、異常のある部位を直接観察します。
 - ・ 必要に応じて、病変の組織を採取し、がん細胞の有無を詳しく調べます。

3) 他の医療機関で精密検査を受ける場合

- ① 他の医療機関で精密検査を受ける場合、検診を実施した機関が検査結果を共有することがあります。
- ② 必要に応じて、検診機関へ結果を提出するようご協力をお願いいたします。

4) 検診の有効性と限界について

- ① 肺がん検診(胸部エックス線検査および喫煙者向けの喀痰細胞診)は、肺がんによる死亡率を低下させる効果があることが確認されています。
- ② がん検診ですべてのがんを発見できるわけではありません。
- ③ がんがない場合でも「陽性」と判定されることがあります。

5) 定期的な受診と症状がある場合の対応

- ① 肺がん検診は継続的(毎年)の受診が推奨されています。
- ② 検診結果が「異常なし」の場合でも、咳が長引く、血痰が出る、胸の痛みがあるなどの症状がある場合は、速やかに医療機関を受診してください。

6) 肺がんと日本の現状について

- ① 肺がんは、日本におけるがん死亡の上位に位置しており、多くの方が罹患しています。
- ② 肺がんの発症リスクを減らすためにも、定期的な検診と健康管理が重要です。

7) 禁煙・防煙の重要性について

- ① 喫煙は肺がんの最大の危険因子であり、禁煙することで肺がんのリスクを大幅に低減できます。
- ② 受動喫煙(他人のたばこの煙を吸うこと)も肺がんの原因となるため、防煙対策も重要です。
- ③ 禁煙を希望される方は、禁煙外来などの医療機関を活用し、計画的に禁煙を進めることをおすすめします。

【胃がん検診に関するご案内】

受診者の皆さまへ

この度の検診結果に基づき、精密検査が必要と判断された方は、必ず精密検査を受けていただく必要があります。精密検査の重要性と方法について、以下の通りご案内いたします。

1) 精密検査の必要性について

- ① 胃がんは日本における主要ながんの一つであり、早期発見が極めて重要です。
- ② 胃がん検診(胃部エックス線検査や胃内視鏡検査)において異常が認められた場合、精密検査を受けることで、より詳細な診断が可能になります。
- ③ 検診結果で「要精密検査」と判定された方は、放置せず速やかに精密検査を受けてください。

2) 精密検査の方法について

胃部エックス線検査(バリウム検査)で異常が見つかった場合

- ① 精密検査として「胃内視鏡検査(胃カメラ)」を実施します。
- ② 胃内視鏡検査では、直接胃の粘膜を観察し、より詳しい診断を行います。
- ③ 胃内視鏡検査では、「生検(組織検査)」を行う場合があります。
- ④ 生検は、胃の組織を一部採取し、顕微鏡で詳しく調べます。

3) 他の医療機関で精密検査を受ける場合

- ① 他の医療機関で精密検査を受ける場合は、検診を実施した機関が検査結果を共有する場合があります。
- ② 必要に応じて、検診機関へ結果を提出するようご協力をお願いいたします。

4) 検診の有効性と限界について

- ① 胃がん検診(胃部エックス線検査・胃内視鏡検査)には、胃がんによる死亡率を減少させる効果があります。
- ② すべてのがんを発見できるわけではありません。
- ③ がんがない場合でも「陽性」と判定されることがあります。

5) 定期的な受診と症状がある場合の対応

- ① 胃がん検診は継続的(毎年)の受診が推奨されています。
- ② 検診結果が「異常なし」の場合でも、症状がある場合は速やかに医療機関を受診してください。

6) 胃がんと日本における現状

- ① 胃がんは、日本におけるがん死亡の上位に位置しており、定期的な検診が早期発見・早期治療につながります。
- ② 皆さまの健康を守るため、適切な検査を受けることが重要です。

【大腸がん検診に関するご案内】

受診者の皆さまへ

この度の検診結果に基づき、精密検査が必要と判断された方は、必ず精密検査を受けていただく必要があります。精密検査の重要性と方法について、以下の通りご案内いたします。

1) 精密検査の必要性について

- ① 大腸がんの早期発見のために、「要精密検査」と判定された方は、必ず精密検査を受けてください。
- ② 便潜血検査で「要精密検査」となった場合、便潜血検査を再度行うことは適切ではありません。必ず大腸内視鏡検査（大腸カメラ）などの精密検査を受ける必要があります。
- ③ 精密検査を受けることで、大腸がんやその前兆となる病変（ポリープなど）の有無をより詳しく調べることができます。

2) 精密検査の方法について

検診結果に基づき、以下の精密検査を行います。

- ① 大腸内視鏡検査（大腸カメラ）【第一選択】
 - ・ 大腸全体を観察し、ポリープやがんの有無を詳しく調べます。
 - ・ 検査中にポリープが発見された場合、その場で切除できることもあります。
- ② 大腸内視鏡検査が困難な場合の代替検査
 - ・ S状結腸内視鏡検査
大腸の一部（S状結腸）を観察する検査です。
 - ・ 注腸X線検査
バリウムを用いて大腸の形状をX線で撮影し、異常を調べます。

※ 可能な限り大腸内視鏡検査を受けることを推奨します。

3) 他の医療機関で精密検査を受ける場合

- ① 他の医療機関で精密検査を受ける場合、検診を実施した機関が検査結果を共有することがあります。
- ② 必要に応じて、検診機関へ結果を提出するようご協力をお願いいたします。

4) 検診の有効性と限界について

- ① 大腸がん検診（便潜血検査）は、大腸がんの死亡率を低下させる効果があることが確認されています。
- ② がん検診ですべてのがんを発見できるわけではありません。
- ③ がんがない場合でも「陽性」と判定されることがあります。

5) 定期的な受診と症状がある場合の対応

- ① 大腸がん検診は継続的（毎年）の受診が推奨されています。
- ② 検診結果が「異常なし」の場合でも、血便、腹痛、便通異常（便秘・下痢）、体重減少などの症状がある場合は、速やかに医療機関を受診してください。

6) 大腸がんと日本の現状について

- ① 大腸がんは、日本におけるがん死亡の上位に位置しており、多くの方が罹患しています。
- ② 早期発見・早期治療によって、治療の選択肢が広がり、生存率の向上が期待できます。
- ③ 定期的な検診と適切な生活習慣（バランスの取れた食事、適度な運動など）が、大腸がん予防に役立ちます。

【子宮頸がん検診に関するご案内】

受診者の皆さまへ

この度の検診結果に基づき、精密検査が必要と判断された方は、必ず精密検査を受けていただく必要があります。精密検査の重要性と方法について、以下の通りご案内いたします。

1) 精密検査の必要性について

- ① 子宮頸がんは早期発見・早期治療が可能ながんの一つであり、適切な検査が重要です。
- ② 検診結果で「要精密検査」と判定された方は、放置せずに必ず精密検査を受けてください。
- ③ 精密検査を受けることで、子宮頸がんやその前段階の異常をより詳しく調べることができます。

2) 精密検査の方法について

- ① 検診結果に基づき、以下の精密検査を組み合わせ実施します。
 - ・ コルポスコープ下の組織診(生検): 拡大鏡を用いて子宮頸部を観察し、異常が疑われる部分の組織を採取し、詳しく検査します。
 - ・ 細胞診: 子宮頸部から細胞を採取し、がん細胞や異常細胞の有無を調べます。
 - ・ HPV 検査: 子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス(HPV)の感染の有無を調べます。

3) 他の医療機関で精密検査を受ける場合

- ① 他の医療機関で精密検査を受ける場合、検診を実施した機関が検査結果を共有することがあります。
- ② 必要に応じて、検診機関へ結果を提出するようご協力をお願いいたします。

4) 検診の有効性と限界について

- ① 子宮頸がん検診(細胞診)は、子宮頸がんの死亡率や罹患率を減少させる効果があることが確認されています。
- ② 検診で必ずがんを発見できるわけではありません。
- ③ がんがない場合でも「陽性」と判定されることがあります。

5) 定期的な受診と症状がある場合の対応

- ① 子宮頸がん検診は、継続的(少なくとも2年に1回)な受診が推奨されています。
- ② 検診結果が「異常なし」の場合でも、不正出血や下腹部痛などの症状がある場合は、速やかに医療機関を受診してください。

6) 子宮頸がんと日本の現状について

- ① 子宮頸がんは、日本の女性のがんの中で比較的多いがんの一つです。
- ② 特に近年、若年層を中心に罹患率が増加傾向にあります。
- ③ 予防や早期発見のため、定期的な検診を受けることが大切です。

【乳がん検診に関するご案内】

受診者の皆さまへ

この度の検診結果に基づき、精密検査が必要と判断された方は、必ず精密検査を受けていただく必要があります。精密検査の重要性と方法について、以下の通りご案内いたします。

1) 精密検査の必要性について

- ① 乳がんの早期発見のために、「要精密検査」と判定された方は、必ず精密検査を受けてください。
- ② 精密検査を受けることで、より詳しく乳房の状態を確認し、乳がんの有無を判断できます。

2) 精密検査の方法について検診結果に基づき、以下の精密検査を行います。

- ① マンモグラフィの追加撮影
 - ・ より詳細な画像を撮影し、異常の有無を確認します。
- ② 乳房超音波検査(エコー検査)
 - ・ 乳腺の状態をより詳しく調べ、しこりの有無を確認します。
- ③ 穿刺吸引細胞診
 - ・ 細い針を使用し、しこりの細胞を採取してがん細胞の有無を調べます。
- ④ 針生検(コア生検)
 - ・ 太い針を使用して組織を採取し、より詳しくがん細胞の有無を確認します。

※ 精密検査の種類は、医師の判断により決定されます。

3) 他の医療機関で精密検査を受ける場合

- ① 他の医療機関で精密検査を受ける場合、検診を実施した機関が検査結果を共有することがあります。
- ② 必要に応じて、検診機関へ結果を提出するようご協力をお願いいたします。

4) 検診の有効性と限界について

- ① マンモグラフィ検診は、乳がんによる死亡率を低下させる効果が確認されています。
- ② がん検診ですべての乳がんを発見できるわけではありません。
- ③ 乳がんがない場合でも「陽性」と判定されることがあります。

5) 定期的な受診と症状がある場合の対応

- ① 乳がん検診は継続的(少なくとも2年に1回)な受診が推奨されています。
- ② 検診結果が「異常なし」の場合でも、しこり、乳房の痛み、乳頭からの分泌物、乳房の皮膚の変化などの症状がある場合は、速やかに医療機関を受診してください。

6) 乳がんと日本の現状について

- ① 乳がんは、日本の女性におけるがん死亡の上位に位置しています。
- ② 近年、乳がんの罹患率は増加傾向にあり、早期発見・早期治療の重要性が高まっています。
- ③ 定期的な検診の受診と、日頃からのセルフチェックが乳がんの早期発見につながります。